

女子大学生のダンスに関する意識の検討

—過去における調査との比較から—

宮下恭子・雨ヶ崎俊子

1. 研究目的

1981年から1983年の間に、筆者らは大学の一般教養の体育におけるダンスの意義を検討することを目的とした調査を行った。今、転換期にある大学においてダンスの指導はこれまでとは違った意義や内容の吟味が必要であろう。そこで、今後の大学におけるダンス教育のあり方を探求するために、現在の学生のダンスに関する意識を調査し、さらに過去の調査結果との比較において研究を進めることにした。

2. 方法

対象：東京都内の女子大学及び女子短期大学の1, 2年の学生で393名。調査期日：1991年9月から10月。調査方法：同年の6月に約160名を対象にした自由記述による予備調査の結果に基づいて、質問項目を選定しアンケート調査を行った。調査内容：①ダンス全般について、その好き嫌い、踊ること、鑑賞することの好き嫌い、ダンスの得意、不得意、習った経験の有無など。②学校でのダンスについて、中学、高校でのダンスの授業や、大学でのダンス受講の希望など。③創作ダンスについて、好き嫌いやその理由、受講経験など。④ダンスの意義について。

3. 結果と考察

ダンス全般、踊ること、鑑賞すること、は共に好きと回答した者の方が、嫌いと回答した者より多い。好きな理由の上位をみると、「踊ること」「リズムにのって動くこと」「楽しさ」など運動快や身体の開放などによるものが多い。嫌いの理由では、「体が硬い」「思うように動けない」などが上位で、ダンスに不向きな身体的条件を設定して、自己の身体を意識していると考えられる。また、嫌いと回答した者の理由の一位は「創作が嫌いだから」であり、四位の「表現的な動きが嫌い」の理由も考え併せると、ダンス=創作ダンスと捉え、創作ダンス嫌いがダンス嫌いの主要な要因であると考えられる。

身体を意識するという観点では、ダンスの嫌いな理由や得意、不得意の理由「体が硬い」「ダンスのセンスに欠ける」「リズム感が悪い」などの理由から、学生達はダンスに適する条件を設定し自己を当てはめていることが伺える。このことは身体を意識を目覚めさせるというダンスの特性を学

表1 ダンスの好き、嫌いについて

群	N	%
好き	138	35.1
嫌い	56	14.2
どちらでもない	197	50.1
無回答	2	0.5

上記3群の $\chi^2=77.2***$ (P<.001)

上記2群の $\chi^2=34.8***$ (P<.001)

表2 ダンスを観賞することについて

群	N	%
好き	181	46.1
嫌い	30	7.6
どちらでもない	178	45.1
無回答	4	1.0

上記3群の $\chi^2=114.7***$ (P<.001)

上記2群の $\chi^2=108.0***$ (P<.001)

生達に意識させる、という点ではダンスの授業はよい効果を与えていると考えられる。

ダンスとスポーツや体操との概念を十分理解しておらず、混乱して捉えているという点がみられる。ダンスの嫌いな理由の二位は「他のスポーツの方が好き」であり、ダンスを他のスポーツや運動と同等に捉えて比較している。さらにダンスの意義では、一位は「痩せる」二位は「美容によい」でありダンスを自己変貌のための美容体操的な手段として考えているようだ。

創作ダンスの好きの理由の一位が「みんなで一緒に踊ること」であり、また、踊る人数は5人から10人が最も多く、次いで10人以上が望まれている、という点で集団の行動を求めるといった特徴がある。

創作ダンスでは、個性を生かし、個人の能力を高めることも大切であるが、創作ダンスが嫌いな者が半数以上もいる現状を考えた場合、むしろ群舞の指導が大切ではないかと思われる。

次に、過去の調査との比較について検討する。ダンス全般、鑑賞、踊ることを通じ、91年は過去の調査時よりも嫌いを示す傾向が強くなり、どちらでもないの回答も多くなっていることから、ダンスに対して、消極的な態度となってきた。

創作ダンスの好き、嫌いでは、91年の好きの回答が他の年よりも少なく、嫌いの回答が、81年と83年の結果より多い。つまり、創作ダンスの好きな者が少なくなり、嫌いな者が多くなっている。

表3 ダンスを踊ることについて

群	N	%
好き	128	32.6
嫌い	77	19.6
どちらでもない	181	46.1
無回答	7	1.8

上記3群の $\chi^2=41.9***$ (P<.001)

上記2群の $\chi^2=12.7***$ (P<.001)

表4 創作ダンスの好き、嫌いについて

群	N	%
好き	29	7.4
嫌い	223	56.7
どちらでもない	136	34.6
無回答	5	1.3

上記3群の $\chi^2=146.4***$ (P<.001)

上記2群の $\chi^2=149.4***$ (P<.001)

ダンスの意義では、過去の調査では、レクリエーションや社交性、社会性の育成などがその意義として重視され、生涯教育的な観点でダンスを捉えていたが、91年は「痩せる」「美容によい」など、ダンスを自己変貌の手段として捉えている。

4. まとめ

以上の結果と考察から、過去の調査と比較するとダンスの好きの割合が少なくなったことの原因の一つにダンス経験の少なさが考えられる。身体意識という点では、リズム感の良しあし、体の柔軟か硬いか、の自己の身体意識によるものが多く、ダンスといえば、しなやかで美しく、よく動ける体が必要である、という学生のダンス観の一端がみられた。また、ダンスとスポーツや体操などの概念の混乱という認識不足も感じられた。